

## 小麦の収穫後の管理について

### (1) 緑肥作物のは種

緑肥のは種作業は、ほ場内に残った麦稈を分解促進させるためチョッパーで細断し、ロータリーなどで整地、ブロードキャスターやドリルでは種、その後覆土、鎮圧をします。

緑肥のすき込みは、分解を促進するため、チョッパーで細断し、プラウですき込みます。緑肥の効果を発揮させるため、適切な施肥と早期は種を実施し、生育量の確保に努めましょう(表1)。

表1 緑肥の種類と特徴

緑肥作物	時期		播種量 (kg/10a)	施肥量 (kg/10a)			作付効果
	は種	すき込み		N	P	K	
えん麦	8/上~中	10/中~下	15~20	4~6	5~10	0~5	有機物供給、雑草抑制
えん麦野生種	8/上~中	10/中~下	10~20	5	5	0~5	有機物供給、キナガサセンチュウ抑制、落葉病軽減
シロカラシ	8/上~下	10/中~下	2	5~8	5~10	0~7	有機物供給、易分解性窒素供給、景観形成
ひまわり	8/上~中	10/中~下	1.5~2.0	4~6	8~10	0~10	有機物供給、菌根菌増加、景観形成

### (2) イネ科雑草対策

シバムギ・レッドトップなどイネ科雑草が多い小麦畑が散見されます。多年生イネ科雑草の除草剤処理は耕起前の時期が最適です。小麦収穫後、雑草が15cm以上に再生してから散布します。

種子馬鈴しょの周辺ほ場では、生産された種いもが萌芽不良を起こす恐れがあるため、グリホサート系除草剤の使用を避けて下さい。

表2 麦類の耕起前雑草茎葉散布除草剤例

薬剤名	有効成分	使用時期	使用量	回数
クサトリキング	グリホサートイブ <sup>®</sup> ロピル アミン塩 41%	耕起前まで (雑草生育期草丈 30cm 以下)	250~500ml (水量 25~100L)	3
サンフォーロン液剤		耕起7日前まで(雑草生育期)	500~750ml	1
タッチダウン iQ	グリホサートカリウム塩 44.7%	耕起3日前まで(雑草生育期)	500~750ml	1
ラウンドアップ マックスロード	グリホサートカリウム塩 48%	耕起前(雑草生育期)	200~500ml (水量 25~100L)	3

注1: 展着剤は加用しない。

注2: 散布後一定時間降雨のない日に散布する(剤によって1~6時間)。

注3: 周辺の作物に薬液がかからないよう注意するとともに、ドリフト低減ノズル(ラウンドノズル等)の使用が望ましい。

## 体調管理に気をつけ、農作業事故を防ごう!

- 小麦の収穫作業等で忙しい時期となりました。計画的に休憩を取るとともに、十分な水分摂取を心がけましょう。
- 農作業事故を避けるため、作業途中で点検等を行うときなどは、必ずエンジンを停止してから行いましょう。また、作業機械周辺の作業員にも声を掛け合うなど、巻き込み事故を未然に防ぎましょう。
- 朝夕の公道通行の際は、必ずライトを点灯し、夜行反射板や低速車マークを必ず付けて安全走行につとめましょう。